

ペルー共和国
チャビン国立博物館建設計画
基本設計調査報告書

平成 18 年 3 月

(2006 年)

独立行政法人国際協力機構

無償資金協力部

無償

JR

06-028

ペルー共和国
チャビン国立博物館建設計画
基本設計調査報告書

平成 18 年 3 月

(2006 年)

独立行政法人国際協力機構

無償資金協力部

序文

日本国政府は、ペルー共和国政府の要請に基づき、同国のチャビン国立博物館建設計画にかかる基本設計調査を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施しました。

当機構は、平成 17 年 10 月 26 日から 11 月 23 日まで基本設計調査団を現地に派遣しました。調査団はペルー国政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施しました。帰国後の国内作業の後、平成 18 年 2 月 26 日から 3 月 8 日まで実施された基本設計概要書案の現地説明を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終りに、調査にご協力とご支援をいただいた関係者各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 18 年 3 月

独立行政法人国際協力機構
理事 小島誠二

伝達状

今般、ペルー共和国におけるチャビン国立博物館建設計画基本設計調査が終了いたしましたので、ここに最終報告書を提出いたします。

本調査は、貴機構との契約に基づき弊社が、平成17年10月より平成18年3月までの6ヶ月にわたり実施いたしてまいりました。今回の調査に際しましては、ペルーの現状を十分に踏まえ、本計画の妥当性を検証するとともに、日本の無償資金協力の枠組みに最も適した計画の策定に努めてまいりました。

つきましては、本計画の推進に向けて、本報告書が活用されることを切望いたします。

平成18年3月

株式会社マツダコンサルタンツ

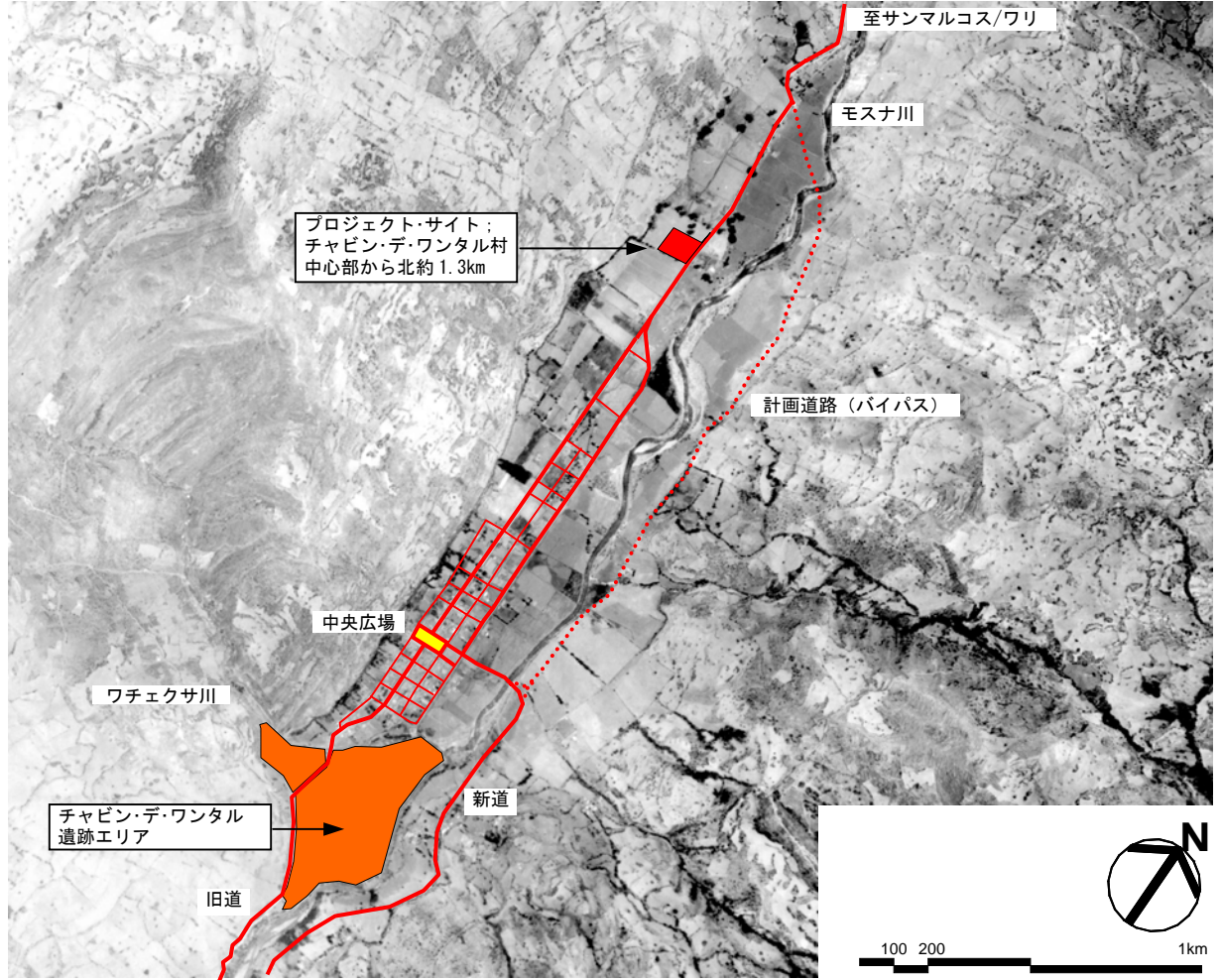
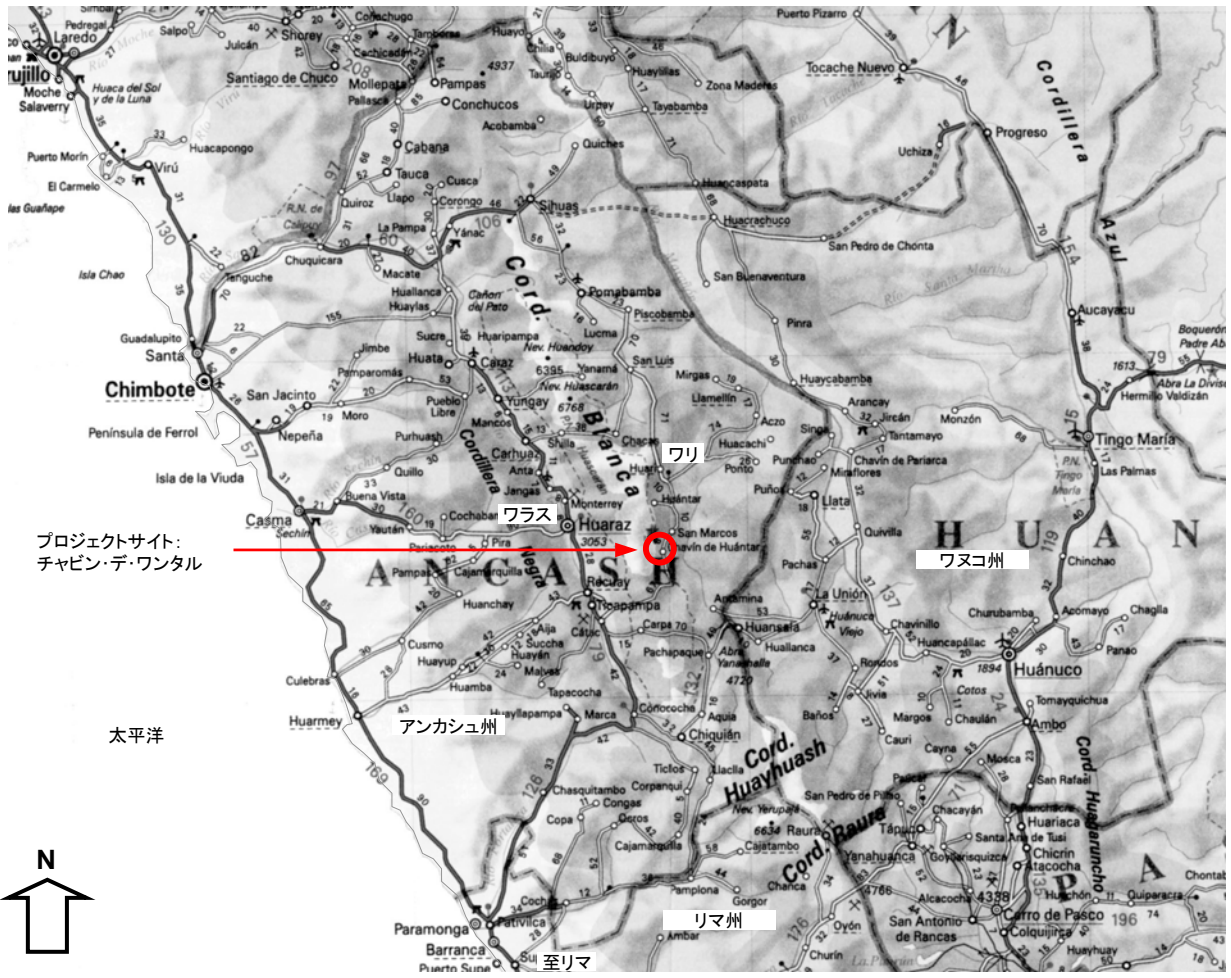
ペルー共和国

チャビン国立博物館建設計画基本設計調査団

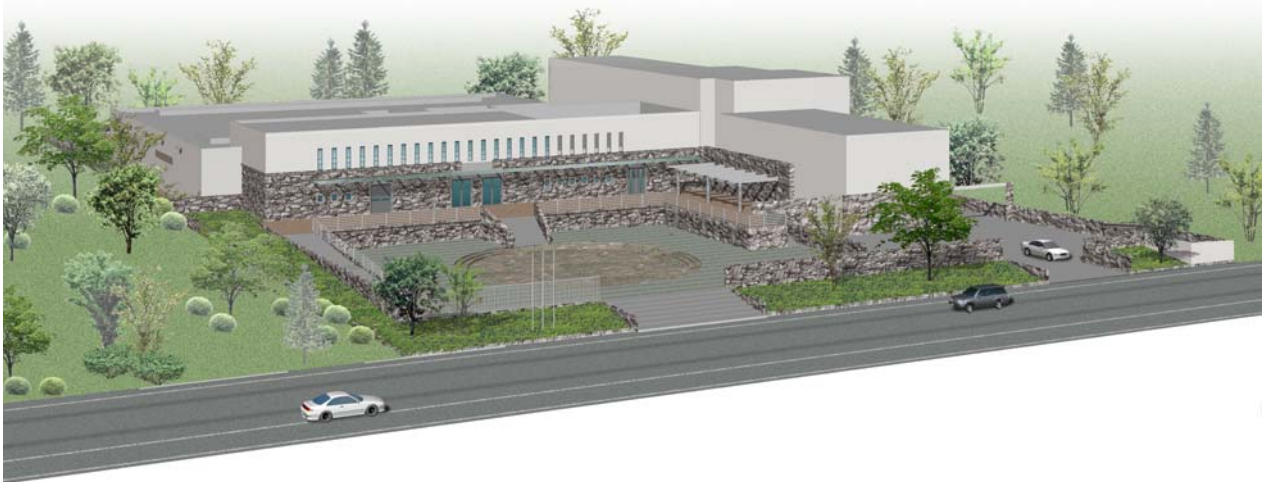
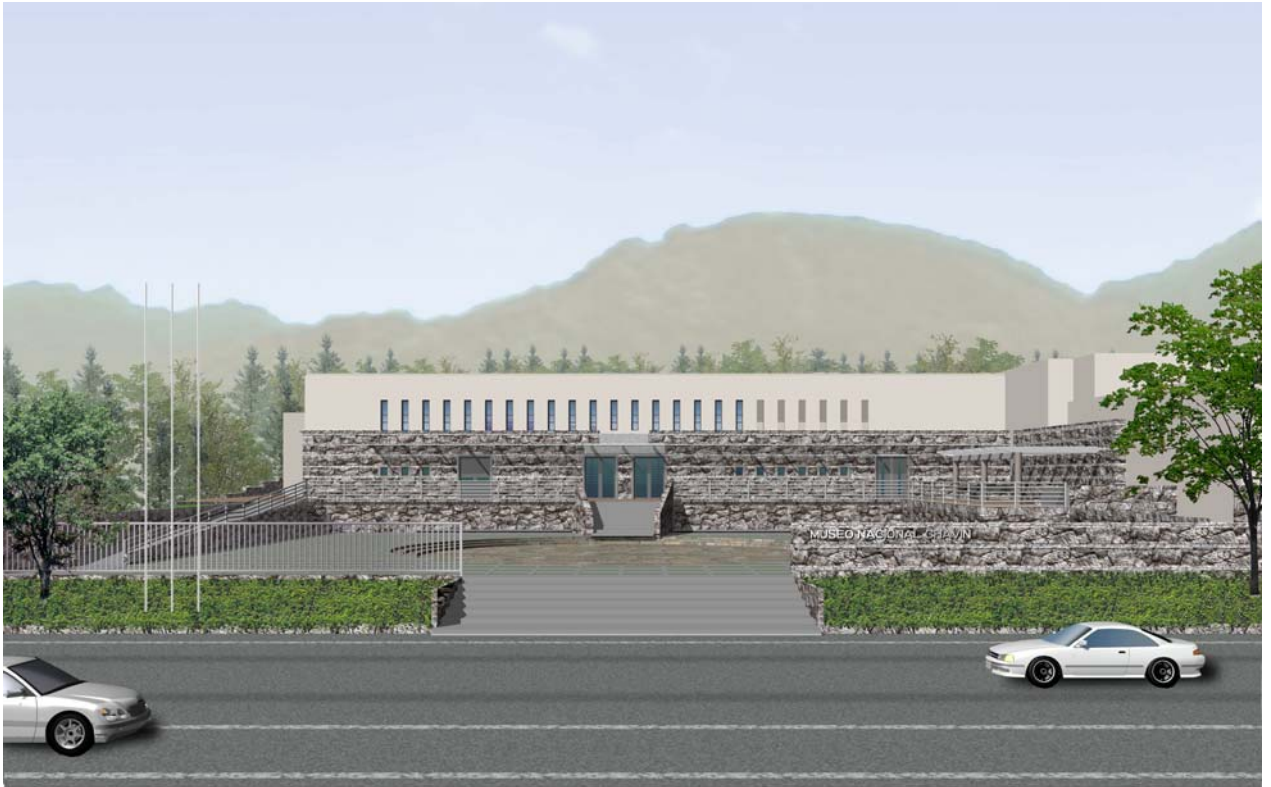
業務主任 大澤智弘

■ プロジェクトの位置図





■ 完成予想図



■ 現況写真 1 (敷地状況)



前面道路より建設予定地全景。チャビン・デ・ワントル村中心部から北約 1.3km に位置し、奥へ向って緩やかに上る地形。周囲は耕作地となっている。



アプローチ方向から敷地を見る。前面道路に架空給電線が通っている。道路は舗装工事中で路盤と側溝の工事を終えている。左手前は隣接農地の区画塀。



敷地南から前面道路側を見る。敷地内には国営宿泊施設として利用されていた建物が残されているが、現在は廃墟の状態であり、計画実施に先立って文化庁により撤去が予定されている。

■ 現況写真 2 (遺跡・遺物)



左：方形広場からの新神殿全景。右：2004年に発掘された古神殿の円形広場。
1995年以降スタンフォード大学チームによる発掘調査が行われているが、未調査部分が多く今後の調査本格化が待たれる。



左：雨水侵入を防ぐために設けられた仮設屋根。右：風化により表面の彫刻が剥げ落ちた石版。
神殿の石積みは劣化が進んで崩壊の危険に晒され、本格的な保全・修復活動が必要とされる。石版や石柱等の大型建築エレメントは遺跡内に放置されているものも多く、適切な状態での保存が緊急な課題となっている。



左：遺跡エリアにある収蔵庫内部。右：遺物の記録・整理活動の様子。
最近の発掘調査での出土物は遺跡内に設けられた倉庫で保管されている。建物はアドベ（日乾煉瓦）造の仮設的なものでスペースも少なく、適切な換気も確保されていない。近年地元 NGO による遺物の整理、記録活動が進められている。